より元気なまちを目指して

岩見沢産 農産物の消費拡大

地元産のメリット

皆さんが普段何気なく口にしている食事。それは、皆さんの生活に欠かすことができない大切なものです。

食事の材料である野菜や果物などの農産物はお店に行けば、季節や産地を問わず一年中店頭に並んでいます。これは、農家の方の日々の努力によるものなのです。

皆さんが住む岩見沢市では、米、小麦、大豆、たまねぎ、白菜などの農産物を農家の方が丹精込めて育てています。

市内の直売所やスーパーなどで岩見沢産と表示されている農産物に、生産者の名前や写真を表示して、販売していることがあります。こんなときは親近感がわき、農産物をついつい多く買ってしまう方もいるのではないでしょうか。

このように、地元で育てられた農産物を地元で消費することを地産地消と言います。

これらの農産物は、収穫から店頭に並ぶまでの時間が短く、新鮮で日持ちもして、安心して買うことができます。さらに、農産物を輸送する距離が短いので、トラックなどが排出する二酸化炭素の削減やガソリン消費量を減らすことにつながり、環境にもやさしいのです。

学校給食でも

すでに市内の小・中学校の学校給食では、地産地消を始めています。

米、パンやラーメンなどに使う小麦粉は、一年を通して岩見沢産を使用しています。

さらに、旬の野菜を使い、子どもたちに新鮮な農産物を食べてもらえるよう工夫しています。

学校給食の他にも、岩見沢産の米、小麦、野菜などを使用する飲食店が徐々に増えてきています。

学校給食で、岩見沢産の新鮮な野菜を真心込めて子どもたちのもとへ。

岩見沢市農産物消費拡大推進協議会

市は、地産地消の取り組みを進め、消費者が農家の顔が見える関係を作っていくことと、次の世代への食の大切さを正しく伝える食育の取り組みを進めるほか、地元の農産物の消費拡大を図るため、農業や商業の関係者と岩見沢市農産物消費拡大推進協議会を平成18年に設立しました。

この協議会では、市内で開催されるイベントで、岩見沢産の農産物が新鮮で安心なものであることを多くの方に紹介しているほか、地産地消を広くPRしたり、道内外の方にも岩見沢産の農産物の良さを知ってもらいたいため、産地間交流や農産物フェアを行っています。

より一層の地産地消を目指し

市内で岩見沢産の農産物を販売している産直店、小売店や岩見沢産の食材を使っている飲食店を示した地図とパンフレットを現在作成しています。

完成すれば岩見沢産の農産物が買える場所や食べられる場所が一目でわかるようになり、皆さんに岩見沢産の農産物を何度でも味わってもらい、地産地消をより一層進めることができます。

ハッピーロード大山商店街にある全国ふる里ふれあいショップは、全国11市町の特産品販売や観光情報の提供を行っています。

ハッピーロード大山商店街は…
東京都板橋区にある商店街で、店舗数は約200店舗、アーケードの長さは540m、多い日で約3万人の買い物客が訪れる商店街です。

大山商店街の農産物フェア

米やたまねぎ、米粉などを販売し、「北海道の大地の産物は信頼できて良い」などの意見が寄せられたほか、初日で完売するものもあり、大盛況でした。

ミニうすによる餅つきや、たまねぎすくいも開催し、岩見沢を紹介。

岩見沢産の農産物を紹介

道外で

道外の方にも岩見沢産の農産物のすばらしさを体験してもらおうと、昨年6月に、東京都板橋区のハッピーロード大山商店街にある全国ふる里ふれあいショップで農産物フェアを開催しました。昨年は計3回、今年も8・10月に開催し、大変好評でした。

道東で

海がない岩見沢で新鮮な魚介類が食べられたら、米をはじめ、新鮮な農産物を釧路市民に、という両市の思惑が一致し、昨年から始まった産地間交流に、今年は紋別市が加わり、岩見沢産の農産物のファンは着

まちの美味しいものをＰＲ

紋別市で

カニや鮭などの旬の味覚を楽しめる「もんべつグルメまつり」で、新鮮な岩見沢産の農産物をPR。

岩見沢市で

彩花まつり

情熱フェスティバル

イベントで新鮮な海産物をPR。

釧路市で

港でとれたてのサンマを満喫できる「くしろOh !! さかなまつり」で、新鮮な岩見沢産の農産物をPR。

中国瀋陽国際農業博覧会は…

中国のほかアジア各国の農業関係の企業が、農産品および加工品、農業用物資、農業機械などを展示販売し、特色ある農産品コンテストなども行われ、毎年開催されています。

６回目の開催になる今年、中国のほか、韓国、台湾など17か国が参加し、４日間で延べ38万人が来場。

中国瀋陽国際農業博覧会

米や酒などの展示とおにぎりの試食を行いました。おにぎりは、４日間で3,500個全てが無くなるほど好評でした。

実に増えています。

海外で

岩見沢日中友好協会が創立40周年を迎えた平成16年に、中国を訪問して以来、農業分野を中心に交流を続けている瀋陽市から市に、国際農業博覧会への出展依頼がありました。

市は、経済成長を続けている巨大な中国市場に注目し、瀋陽市との将来的な経済交流を進めるため、この博覧会に国内で唯一出展し、大きな注目を集めました。

◇　◇

協議会が中心となって進める農産物の道内外への販路拡大は、まだまだ始まったばかりです。

しかし、農産物の消費を拡大するためには、このことばかりには頼っていられません。やはり地元で作られたものは地元で消費するのが一番なのではないでしょうか。

岩見沢産の農産物の消費が増えることは、農業が元気になることにつながり、基幹産業の農業が活発になれば、まち全体も元気になる。こんなことを期待せずにはいられません。

岩見沢市は、米の作付け面積が全道一を誇り、小麦、大豆、たまねぎ、白菜などの農産物もたくさん育てている農業のまちです。

皆さん、岩見沢産の農産物の消費を増やすには、どうすれば良いか、農家の皆さんが丹精込めて育てた農産物を食べて、一緒に考えてみませんか。

問合先　市農務課農業振興係